

生活者ネット
市議会議員の活動から



ルネこだいらの展示室いっぱいに作品が並んだ

あさやけアートフェスティバル 2014

平野ひろみ

描く、働く、生きていく「作業所発心の扉の開きかた」と題して作品展が開かれました。重度身体障害者グループホーム、国立精神・神経医療研究センター、おだまき工房などとの合同で行われた作品展示、ワークショップや自主作品の販売など、これまでにない芸術イベントでした。パステル、色鉛筆、アクリル絵の具などを用いて描かれた絵は、ひとつひとつに主張があり力を感じる作品です。

喜びや悲しみ、怒りの声を感じるとともに静かな力や柔らかなやさしさ、不思議な光をはなって私に問いかけてきました。

この作品展の世界観のような個性に応じた活動の中からひとり1人がその人らしい一歩を踏み出すことができる社会を目指していきます。

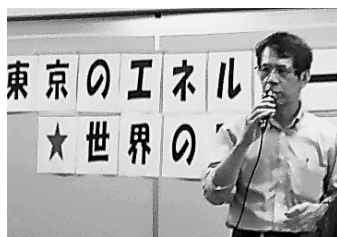


世界のエネルギー政策の潮流は 自然エネルギーへの転換!

岩本ひろ子

自然エネルギー財団事務局長である大野輝之さん講師の学習会に参加。これからのエネルギー戦略と地域・自治体の役割について講義を受けました。世界では、この13年間で太陽光発電の伸びは127万kWから1億3,670万kWに。昨年1年間だけでも3700万kWも増加しています。

異常気象などの気候変動、化石燃料の不足、原子力の危険を考えれば自然エネルギーへの転換は必然であり世界の潮流です。原発を重要なエネルギー電源に位置づけた政府のエネルギー基本計画は完全に時代遅れです。基本計画の見直しを求めていくとともに地域から自然エネルギーの拡大をすすめていきたいと思っています。



講師の大野輝之さん



シンポジウムには会場いっぱいの人があふれた

住民投票から1年、決意新たに

日向みさ子

6月21日、小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会主催によるシンポジウム「小平住民投票一周年～まちづくりは市民参加で」に参加しました。

東京都内初の住民投票が小平で実施されたのは昨年5月26日。早いもので1年が経ちました。直接請求による住民投票条例の議会での成立から一転、投票率50%の成立要件という経過は、つい先日のように鮮烈な記憶であり、シンポに参加した多くの市民のみなさんと同様、私にとってもまだ終わらない問題です。

都市計画と市民参加、地方自治における都と市の関係、環境保全、首長と議会の二元代表制、市民の直接参加——さまざまな切口でこれからも民主主義について考え、行動し続けようと思っております。